

1 青春時代の初々しい思い出

入社3年目、社宅（寮）を出なければならなくなり、初めてアパート探しを。場所は杉並区のJR高円寺駅から徒歩で12〜13分のところにある、モルタル2階建ての古いアパートでした。家財道具といえば机と椅子、それに衣類を入れるフアンシーケースと小さなニクロム線のストーブ1台。冬はとても寒く、そのストーブに毛布を掛け、コタツのようにして少し体を温め、机の下に頭を突っ込み寝ていました。なぜならば、すきま風の入る三畳一間だからです。

小さなラジオからは『夜明けのスキヤット』（由紀さおり）や、『風』（シユールベルツ）、FMの深夜放送では『ジェットストリーム』甘く上品な城達也じょうたつやのナレーションに合わせてメロディーが流れていました。

このように言えば非常に寂しい青春のように思えますが、心は仕事に燃え、給料も毎年それなりに上がり、私なりに頑張っていたような気がします。それでも夜になると寂

しくなり、近くの「ライオン」という名のスナックに飲み。夫婦でやっている小さな店で、常連客の中には後に作詞家として有名になり奥村チヨと結婚した浜圭介が。当時は歌手で頑張っていました but 売れていないようでした。スナックのテレビには大橋巨泉の「11PM」。当時は珍しいバニーガールが私の目には眩しかった。

営業の駆け出しだった僕は、心の中では「今にみている！ 今にみている！」とギラギラと燃えていた。心は燃えていても3畳1間はとても寒かった。

内に秘めたる

「気力」が大切。

